

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	医療法人社団 紀洋会	代表者	岡本 のぶ子
事業所名	小規模多機能型居宅介護けや	管理者	橋本 明美
法人・事業所の特徴	明るい眺めの良い事業所で、家庭的な雰囲気大切に、ご利用者の第二の我が家として、居心地よく安らぎの場になるように心がけている。ご利用者と共に地域とのつながりを大切に、行事を通して交流を深めている。ご利用者のリクエスメントや季節にあわせた手作りの料理を提供している。		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1	1	2	0	1	1	0	3	0	9

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	地域の社会資源(ボランティア、バリアフリーのスペース、車いす用のトイレ・公園)を収集した情報をリスト化したファイルを作成し活用する。	ファイル作成し、地域の介護タクシーや保険外のサービスの情報なども綴って共有している。	成年後見制度の研修だけでは権利擁護の意味としては不十分。その人を守るという意図では障がいや疾患の理解を深める必要もある。また、ヒヤリハットをたくさんあげ分析改善していく必要がある。	次年度の研修に障がいの特性や疾患の理解が深まる内容を取り入れる。職員ひとりひとりが、リスクマネジメントに取り組みようヒヤリハットが書きやすい環境を整える。
B. 事業所のしつらえ・環境	地域住民が参加できる催しの案内を広報に載せ、地域に案内する。ご利用者と地域の方が交流できるように年2回行う。	地域のボランティアのお力添えもあり、年2回以上の交流が行えた。近隣幼稚園・保育園・老人会など積極的に交流できている。	けやきの郷の事業所の内容が浸透していない。近隣のタクシーサービスの連日などを地域住民はわからない。今回民生委員の見学会を行った。広報などはどこにどのような形で配布しているのか。	ご利用者と一緒に地域ふれあい喫茶や地域行事へ参加し、広報紙等を通して情報を発信してゆく
C. 事業所と地域のかかわり	介護相談会の再開。月1回開催し、継続的に行う。相談日でない日も受入れできることを広報誌に掲載し周知していく。FBの活用や、近隣住民に活動内容を掲示していく。	相談日の固定はせず、いつでもお受けしている。事業所以外のサービスについても把握し、情報提供や担当者に繋いでいる。フェイスブックは小まめに更新している。	相談人数は少ないかもしれないが、相談できる場所として知ってもらえる。小規模を利用する前提での相談になるのではないかと。	相談については随時受け、介護相談会を月1回開催する。開催日は広報誌での案内やのぼりなどを使い、地域の人に発信していく。
D. 地域に向いて本人の暮らしを支える取組み	地域担当をふやし、スタッフ皆でご利用者の住んでいる地域の情報収集を、継続する。地域サロンに一緒に参加できるように支援を行っていく。	ウッディ地区のコミュニティに広報を配布に通っている。けやき台、すずかけ台以外の地域の情報収集が難しい。職員の住んでいる地域の情報も気にかけている。	まずはけやき台のサロンに来てほしい。敬老会も介護者同伴での参加が可能であり。地域の高齢者の方々に参加してほしい。	けやき台のふれあいサロンや喫茶にご利用者も参加する。ご利用者にも居住地域の行事の内容を案内する。地域担当による情報収集を継続し、更なる発信活動を進める。
E. 運営推進会議を活性化させた取組み	運営推進会議の案内、議事録をご家族に配布する。案内にご意見欄を設け、助言していただけているようにする。	運営推進会議の出席案内は順番に声掛けをしているが、出席者に偏りがある。	家族への議事録送付は個人情報もあり難しいと思う。出席依頼も仕事をもつ家族がほとんどで調整が必要。	運営推進会議に継続して出席していただくようご家族に参加を依頼し、1年を通して事業所をみていただく。
F. 事業所の防災・災害対策	おむつを備蓄し、災害時に地域に貢献できるように準備しておく。	防災マップは職員の目に触れるように掲示し、停電に備え、水、懐中電灯等備蓄している。地域の防災訓練には職員が参加している。	おむつ等の備蓄があり車いす用のトイレがあるという安心感がある。福祉避難所的な存在になってほしい。	地域の防災訓練に参加する。次年度は、地域の人が事業所の防災訓練に参加できるように声掛けする。